

# (仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画 事業者ヒアリング調査 (中間報告)

## 1 調査の概要

---

### (1) 目的

- ①町田の文化芸術の現状を把握し、特徴を調べる。
- ②今後の町田市の文化芸術推進の参考とするため、各活動者の意見を伺う。

### (2) 調査対象

- ①美術系施設・事業者 4団体
- ②音楽（ポップス）系施設・アーティスト 4団体
- ③ダンス系事業者 1団体
- ④音楽（クラシック）・舞台芸術系施設・事業者 4団体
- ⑤文学系施設 1団体
- ⑥ゲーム・アニメ系事業者 1団体
- ⑦遺跡系施設 1団体

※以上実施済。以降は実施予定。

- ⑧文化芸術の有識者 3名
- ⑨生活文化系アーティスト 2団体
- ⑩音楽（クラシック）・舞台芸術系施設・事業者 1団体
- ⑪音楽（ポップス）系プロモーター 1団体

### (3) 実施期間

2024年5月～9月

## (4) ヒアリング内容

- ①団体の沿革・概要
- ②団体の活動内容・特徴
- ③利用者・参加者等の状況
- ④他団体・地域との連携状況
- ⑤今後の活動予定
- ⑥町田市における文化芸術のトレンドやニーズの状況・変遷
- ⑦町田市の今後の可能性

※詳細な質問項目は団体により異なる

## (5) ヒアリング方法

ヒアリングは対面またはオンライン(Zoom)で行い、複数人の場合はグループでヒアリングを実施した。

## 2 調査結果（中間報告）

---

### （1）町田市の文化芸術の現状

#### ①美術系

##### 【概況・経緯】

#### ○国際版画美術館

- ・年間入場者数 11 万 9 千人。来館者は、市内が 2～3 割。町田より西側地域を中心とした、綾瀬、秦野、藤沢、大和など美術館空白地帯の方が多く、施設専門性を反映して比較的広域の集客を実現している。
- ・事業によって異なるが、30～40 代までが半数、50 代以上が半数程度の割合が多く、客層の顕著な高齢化傾向もない。
- ・設立した 1987 年当時は、全国の都道府県でコレクションブームだったが、収集しやすく、浮世絵を初め世界的レベルの日本の版画に特化した唯一の版画専門館とした。

#### ○町田市立博物館

- ・2019 年閉館。入場者数は年間 1 万人以下。来館者は、町田市内からが 60%。他は小田急線下り方面の藤沢、秦野、箱根方面の美術館空白地帯から来る。主に 50 代以上。
- ・現在は、巡回展として、館蔵のガラス作品展 130 点ほどを他館で行っている。
- ・市区町村レベルの博物館は、ゆかりの作家の作品など郷土資料館的性格が強いが、ここは工芸に特化している。絵画より身近で市民に受け入れやすく、版画と同様に価格が安く、市レベルの財政的身の丈に合っているながら他と差別化できると考えた。美術館も版画に特化しており、両館とも大きな特徴がある。

## 【資源】

### ○国際版画美術館

- ・国際版画美術館と同規模の版画コレクション（3万点）は、東京国立博物館や東京近代美術館など国立レベルにしかない。分野における網羅性もあり、研究リソースとしてもクオリティが高いため、他の美術館や専門機関からの問い合わせや収蔵品貸出の依頼などが、非常に多い。
  - ・日本の版画は世界的に有名であり、国際版画美術館は世界に類例がない唯一無二の存在であるとする。
  - ・海外では版画はプリントアートと理解されるが、プリントアートは社会の動向や政治と結びついた文脈があり、大事にされている。パリ国立図書館では、主な印刷物を必ず収集しており、世界で版画美術館に匹敵するのは、国際版画美術館ぐらい。
  - ・高い専門性をもった学芸員によるコレクション作品中心のオリジナル企画であり、展覧会自体のクオリティが高い。
  - ・国内有数のコレクションを研究・展示活動や普及活動に活用している学芸員が一定数以上確保されている。
- ※2019年度地域創造調査：市町村美術館の学芸員数平均は2.2人、政令市5.2人、都道府県7.2人
- ・版画を作る人には全国的に有名な版画工房もあり、本格的な作品を制作できる。
  - ・市内に芸術系学部をもつ大学（特に美術系が多い）が多く、相互に連携しているだけでなく、美術館・博物館とも協働している。また、市内に大学出身アーティストがアトリエを持ち、活動している。

### ○町田市立博物館

- ・国宝はないが、ピラミッドの頂点だけでなく底辺までの収蔵品がバランスよく所蔵されている。ピラミッドが満遍なく揃う収蔵品は、町田をシンボリックに表していると思う。
- ・東南アジアの陶磁器コレクションは、ベトナムで陶磁器の歴史の本を出版するとすれば、必ず当館の作品が入るほど素晴らしい。タイなど他の東南アジア地域とボヘミアも同様。
- ・東京国立博物館は、町田市立博物館ほど東南アジアの陶磁器作品を持っていない。ガラスについては、国立には専門の学芸員がいない。
- ・現代美術界は世界的に注目されており、日本の現代アートでは工芸をやれば成功するだろう。持っている収蔵品を上手に活用すれば良い。

## 【課題・今後取り組みたいこと】

- ・日本の美術館は今変わり目にあり、役割が変化しつつある。美術は収蔵品ではなく、作った人・触れた人との関係の中で起こることが大事である。
- ・これからの日本の文化芸術を世界に発信するのは工芸であり、学芸員等ソフトの方が重要になるため、そういったものを支援すべき。
- ・版画はプリントアートの一部であるが、国際版画美術館は、現代美術の作品を活用しきれていないと感じる。収蔵作品の見せ方を工夫したほうが良い。
- ・**工芸品は生活の中に違和感なく存在し、工芸品を通じて、今はいない他者に触れ深く理解できる。そうした他者の営みや文化を伝えていったらどうか。**
- ・今一番問題なのは「人の中にある技術」の継承。失われてしまう技術が、あらゆる分野にある。
- ・美術系大学を卒業し作家活動を続けるためにアトリエなどがほしいが、日本では実現が難しい。**本学と多摩美、女子美、桜美林、武蔵美など美大が集中しているため、町田市、相模原市、八王子市が協力して少し後押しするだけで、相当数の作家が制作できる。**
- ・NYのソーホーやリバーサイドパークのように、アートを生かした町おこしの成功例は多い。日本でも年に一度のイベントではなく、長いスパンで街と人を育てていく仕組みができないか。教育機関が輩出した学生が住んで、生活の中で活動すれば、長期的な地域活性化につながる。
- ・駅から美術館への道における回遊性の整備、データベースやSNSを活用した娯楽性・教育性のある広報戦略、戦術などが必要。
- ・集客は立地条件と広告不足の影響が大きい。外部から見て広報が苦手なイメージがある。
- ・コスト効率の高い広報が重要。そのためには、デジタル活用に加え、宣伝・周知してくれる人（アンバサダー）をうまく巻き込むとよい。

## ②音楽（ポップス）系

### 【概況・経緯】

- ・市内のライブハウスは、都心部や横浜市について1980年代初めから立地が始まっており、首都圏郊外のバンドなどの活動の拠点の一つとなっている。
- ・立地面で使いやすかったことと、ライブハウスが横浜市と東京都心部にしかなく、神奈川方面のバンドが集まりやすかったことから、町田は十分な需要が見込める地域と評価されていたと考えられる。
- ・1986～89年くらいからビジュアル系バンドが流行り始めて、演奏する場所を求めて町田に集まり、それが繁華街という文化と融合して盛り上がりを見せた。
- ・新宿、下北沢、渋谷など都心部と異なり、町田市では、活動する／スタジオで練習するバンド同士の競争意識が薄く、むしろ交流に繋がっているところが地域特性である。
- ・楽器人口は増えているが、オンライン上で一人で発表する人が多く、人との繋がり方は変わってきた。逆に言うと、個人の趣味として楽器がやりやすくなったのは確かだと思う。
- ・音楽スタジオは、都心よりも少し郊外のほうが栄える感じがある。町田は方々から来られることがメリットとなって、他の街より人が集まっているイメージはある。
- ・音楽スタジオは、下は小学生から上は高齢者まで、幅広い層に利用されている。
- ・「けいおん!」や「ぼっち・ざ・ろっく!」などのアニメや、人気のガールズバンドの影響で女の子のバンドも増えている。やはり流行りのものが活動に反映される傾向は強い。
- ・音楽スタジオは、ダンスやDJの練習で使う人もいる。全国的にヒップホップをやる人が増えているので、町田でも増えている印象がある。

### 【資源】

- ・LUNASEAなど町田市ライブハウス出身の有名バンドもあり、近年では学生バンドを題材としたアニメ「ギヴン」の舞台となり、ファンには聖地になっている。
- ・町田はバンドなどポップスやロックの音楽活動をしている人が多いイメージはある。大学生が卒業して、そのまま町田に住んで音楽活動を続けているという流れはある。
- ・町田は交通の便が良かったため集まりやすく、町田になじみがある人などが拠点として活動を始めたりしている。ライブハウスも6軒ぐらいあり、若い人が活動できる環境が整っている。
- ・ライブハウスでは、出演者について、それほど実力がなくてもライブが初めてでも、人気に関係なく地元の高校生たちを育てている。

- ・町田パリオビルにあるまほろ座は、エンターテインメントで人と人を繋ぐ発信基地を作りたいという想いで活動しており、音と照明が一流のライブハウス。町田ご当地アイドル「まちだガールズ・クワイア」、立川流の落語会などを育てる活動を積極的に行っている。
- ・子どもセンターは、市民からの要望により、必須施設である音楽室をスタジオの形態で設置しており、高校の軽音部などが近くの練習場として利用している。  
他市と比較し、近くに無料で利用できるスタジオがあるのは、18歳未満には魅力的な特徴。
- ・町田駅前には、楽器店についても、有名どころが揃っており、個人店も多く存在する。
- ・町田市の公園を活用した地域おこしを行う、音楽が生まれ育つ街を創出する、高校生、大学生世代で音楽を頑張っている人の発表の場や経験の提供にする、新しい音楽に興味を持つためのきっかけ作りをする、を目的として、音楽フェスが薬師池西公園で開催されている。
- ・2015年にまほろ座がオープンして以降、晴の輔の高座を開催している。ライブのお客様が落語会に、落語会のお客様がライブに来てくれることも多い。  
(町田市民ホールでは、オープンしてから立川志の輔師匠が市民ホールに出演している。毎年出演しているのは都内では町田だけ。)

### 【課題・今後取り組みたいこと】

- ・町田は下北沢や新宿など都心部のカルチャーが入ってきやすいので、先進的・都会的なイメージはある。まちごとのジャンル感というのがあるが、町田は「これ」というものが見えにくく、幅広く多様なジャンルのバンドがいるのが特徴だと思う。
- ・町田を目掛けてバンド活動しに来る人は少ないのではないかと。技術に自信がある人は、下北沢や渋谷などライブハウスが多い場所に出て行ってしまおう。
- ・町田はアクセスがいい分、人は流動的で他に出て行ってしまおう。地域の活動としては地元感が強くは出づらいつとを感じる。ただ、ライブハウスが多い新宿、下北沢、渋谷と比べると仲良くなりやすい空気感があり、都心と地方の中間で、奇跡的にすごくいいバランスだと感じる。
- ・町田市には小さなライブハウスはあるが、大きな代表的なライブハウスがない。また、ライブイベントがなく、ライブする機会がない。
- ・町田は練習の場所はあるが、発表の場はライブハウスに限られてしまっている。ライブハウスは敷居が高いので、街中や公園で気軽に発表できれば、もっと市民に広げられると感じる。
- ・大音響で大きなイベントができて、駅から近い人が集まりやすい野外の場が必要。

- ・ライブハウスより敷居の低い、音楽との出会いの場を作れたらいい。みんながふらっと行ける場所にポップスのステージがあるなど、町田のまちに遊びに来たら音楽に出会って、自分もやってみたいというのが自然発生するような場。  
一方で、大きい音を出すことに対して、町田はハードルが高いまちである気がしている。
- ・町田は子どもセンターに音楽スタジオが使える環境はあるが、**発表の場は意外とない**。もっと気軽に人が集まれる、いろいろな人を巻き込みやすい環境を作れたらと思っている。
- ・町田は複数線の乗り入れがあり人も多いけれど、働いている世代も多く見向きもしてくれない。イベント企画で発信していく必要があると思う。
- ・通過人口が多い町田駅前で、正式に路上ライブするための公式許可がとれない。アマチュアが気軽に使える場所がほしい。

### ③ダンス系

#### 【資源】

- ・かつてストリートダンスといえば、川崎市の次に町田市であった。町田はターミナル駅で、若者文化があり、ダンスをしている仲間が集まっていた。
- ・町田市のストリートダンス活動はそれなりに多い、駅前の大手スクールはやや減っているが、地域型は続いている。貸しスタジオで活動しているスクールが増えている。

#### 【課題・今後取り組みたいこと】

- ・現在は、習い事としてダンスをしても、本気で取り組む人は中学生でも新宿や渋谷に出て行ってしまふ。一方、そのままダンスの講師となる人や、いったん町田を離れても戻ってきて趣味でダンスを続ける人も多いと感じる。
- ・ダンスを発表する場が少ない。町田市は人口規模のわりにホールが1000人未満で小さく、町田で予約がとれないから他市のホールを予約している団体がいる。**屋外でダンスをする機会があれば、一般の人にも見てもらえるので良いと感じる。**
- ・横のつながりをつくって、市民文化祭ダンスを開催したい。

## ④音楽（クラシック）・舞台芸術系

### 【概況・経緯】

- ・町田市民ホールと和光大学ポプリホール鶴川では、演歌・映画音楽・落語・クラシックコンサートなど鑑賞事業を提供している。演歌や落語、クラシックの集客は、市内が5～6割、若者向けの企画で市内が4割程度となっている。若年層にも人気があるジャンルでは、出演するアーティストのファンが市内外から集まっている。
- ・一般財団法人町田市文化・国際交流財団では、市民文化団体等の活動の広報協力を行うほか、町田市ゆかりの若手クラシック演奏家のコンサート実施（水曜午後の音楽祭）やアーティストバンクなど、活動団体の支援を行っている。
- ・市と音楽座ミュージカルが、パートナーシップ協定を結んでいる。
- ・町田市に多くの人に移住してきて急速に人口が伸びた際、町田フィルハーモニー交響楽団、合唱連盟、バレエ協会、音楽協会からなる町田市芸術協会が作られ、各団体が集まって活動していた。現在は、協会は解散し各団体が活動中。

### 【資源】

- ・バレエやピアノのコンクールが多く、全国規模で40回、50回の歴史を持つ団体が、町田市民ホールで公演している。他、町田フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会、町田シティオペラ協会など市民団体や鶴川第二小中学校合唱など、町田市民ホールで町田の文化的な活動が行われている。
- ・音楽座ミュージカルの自前の稽古場がある。音楽座ではオリジナル作品を上演し、全国でも珍しく劇団員を育成しており、町田市民ホールでホームタウン公演をしている。また、毎年学校への巡回公演を行っている。観客は8：2～9：1で女性が多いが、中高年男性も多い。
- ・著名な指揮者が居住していたことから、ソリスト部門、混声合唱カノーラ、町田シティオペラフィルハーモニー、多摩オペラ研究会、町田シティオペラ愛好会の5つの団体がまとまった町田シティオペラ協会が約20年間活動しており、公演活動、市民の人材育成活動を行っている。
- ・地域に落語が根付き、落語について普及活動をしている団体もあり、また一流の落語家も来ており、楽しみにしている方が増えている。
- ・会員制の子ども劇場による「まちだ演劇鑑賞会」を、町田市民ホールなどで定期的に行っている。
- ・鶴川第二小学校と鶴川第二中学校の合唱部をNHKコンクール等全国大会で優勝へ導いた指導

者（キーマン）がいる。当該校では、十数年以上も小中学校で連携できており、卒業後高校、大学生も、1/3～1/2 がOB会に入って活動を続けていて、合唱が文化的に根付いている。

### 【課題・今後取り組みたいこと】

- ・町田市民ホールの演歌、落語、クラシックコンサートでは、集客の高齢化が著しく、昼の部に集客が偏っており、夜の部では空席が出がち。
- ・10年前と比較し、夜公演に人が来なくなったことが大きく違う。土曜日でも18時以降開始の回は人が少なくなった。
- ・経営的に、若い人を呼ぶことが大きな課題。10代向けのコンサートも取り入れ、町田市民ホールも若い子向けの公演をアピールする必要がある。
- ・観客は増やしたいが、都内には大きなホールが数多くある。町田の課題は、そうした都心のホールに観客が行ってしまうこと。
- ・市内公演を定期的に行うことで、ファンづくりが進むと考えている。他自治体では、招聘事業を定期的に行うような基盤ができているところもある。
- ・舞台芸術は、そもそも収支が取りにくい活動であるため、継続に苦労している。藤沢、立川の市民オペラで行われているような後押しが必要。
- ・「こんな質の高い公演を町田で見られるなんて」と言われるが、まず足を運んでいただかないとわからないのが難しいところである。さらに、オペラへの出演となると余計に敷居が高いので、まず合唱から参加する人を増やしたい。
- ・合唱をたくさん練習できる場所、ホールなどがもっとあるとよい。
- ・路上で青空コンサートをするための使用許可などが厳しく、断念せざるを得ない。
- ・指導者・キーマンが継続して指導する効果は非常に大きい。学校の部活等指導者では、実質ボランティアで謝礼もないため、技術を持った専門家をお願いするのは難しい。

## ⑤文学系

### 【市民文学館の概況・経緯】

- ・図書館機能と集会所機能がついており、企画展示を年4回行っている。
- ・企画展は、町田ゆかりかどうかや知名度ではなく、時代に合うかどうかを優先順位とし、集客を意識している。そのため、準備期間1年～1年半でオンタイム企画できるようにしている。
- ・コロナで集客が30%減り、若い層に来てもらえる内容に変更している。来館者は主に60代⇒40代になった。
- ・定例のものとしては、読み聞かせや、わらべうた、大人のための紙芝居、語りがある。文ッ字フリマでは、周辺美術系大学と全国（出版社）からの出店がある。
- ・収蔵品の特徴としては、町田の文豪は多くない。明治～昭和初期は町田にはなく、昭和50年代町田市の人口増とともに作家が増えているため、これから増えていく想定である。

### 【資源】

- ・総合文学館を持っているのは、多摩地域で町田市のみ。

### 【課題・今後取り組みたいこと】

- ・会議室は、俳句会や英語で文学を読む会など文芸サークルが主体で使用している。22時までの夜間枠はあまり使われていない。

## ⑥ゲーム・アニメ系

### 【資源】

- ・町田は、PCショップやヨドバシカメラ、大手アニメグッズ店もある。かつて西の秋葉原と呼ばれていたように、相模原や大和からであれば町田に来るのではないかと思う。

### 【課題・今後取り組みたいこと】

- ・コスプレイベントや声優イベント、楽曲コンサートは23区に集まりがちなので、町田より南や西に住む人にとっては良い。ただし、ファンはどこからでも来るので、都内からでも来るだろう。

## ⑦遺跡系

### 【概況・経緯】

- ・町田市には約 900 ヶ所の遺跡があり、そのうち 8 割が縄文時代の遺跡である。
- ・町田という土地が川と森があり、食料があり住みやすい土地であったことや、多摩ニュータウンの開発により、住宅跡や土器・石器が多く出土されている。
- ・弥生時代は、土地や水が必要となるため、町田では遺跡は少なくなる。
- ・都心からの研究者が、考古資料館に文献や出土品を見に来ることが多い。
- ・博物館法が改正され、町田市でもデジタルミュージアムを作成している。
- ・国立博物館で 2019 年に縄文展で土偶を展示してから、アートっぽい視点から、一般の 30-40 代の方に縄文時代の人気がある。

### 【資源】

- ・町田は山や崖が多く、窯も作りやすかったため、**縄文時代の出土品が多い。縄文時代は 6 つにわけることができるが、町田にはどの時代の遺跡もある。**他に縄文時代のものが多い土地としては西東京市や青森、山梨がある。貝塚は大森が有名。
- ・**横穴墓群が、100 個以上ある。**
- ・多摩境駅近くに、日本で最も駅から近く、都内で唯一見学できる縄文時代のストーンサークル東京都指定史跡田端環状積石遺構がある。
- ・**町田市指定有形文化財「中空土偶頭部」は、国宝の函館のものとよく似ている**ため、函館に貸出したり、マレーシアで紹介されたりした。中空土偶は、千葉や松戸、厚木、大田区にもある。
- ・土器の文様を見ても、どの時代もいろいろなものが入ってきていることがわかり、ストーンサークルひとつ見ても、積み方が東北からのものだったり、町田オリジナルがない。しかし逆を言えば、いろいろなところのものが見れるという利点はある。
- ・成瀬の浅鉢や、木曽中のクルミ型土器などは珍しいから特徴あると思っている。

**【課題・今後取り組みたいこと】**

- ・考古資料館の来訪者からは、町田の近代の郷土史の展示が少ないと言われるが、展示場所がない。
- ・町田市指定有形文化財「中空土偶頭部」をモデルに生まれた「まっくう」が、ミュージアムキャラクターアワードを受賞している。すでに絵本やコラボ給食などにより、小学生等への認識率は上がってきているが、目に触れる形で内外へ発信する必要がある。
- ・しっかりとした文様の大きな縄文土器もあり、資源は十分ある。共通圏域である神奈川県や学生等とコラボしていく段階だと思っている。都心からの集客も見込めると思う。
- ・縄文土器等を実際に触れる体験については、基本かけらやレプリカであれば今も行っている。民俗資料は紙資料等なので体験が難しいものが多いが、糸車・座繰り等、動かす・質感を見せていきたいと思っている。
- ・縄文時代のものとして、材質から市外の一部でしかとれない翡翠・めのう・水晶・黒曜石等が町田で出土されている。「もの」が渡ってきたのか、「人」が渡ってきたのか、ストーリー化してわかりやすく伝えることはできると思う。
- ・デジタルミュージアムについては、いいものを載せていると評価されるが、さらに活用していきたいと思っている。
- ・広報が弱いので、SNSをもっと活用したいと考えている。